

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
令和2年12月7日

石狩湾沿岸における今漁期（令和3年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）：5年魚（2016年級）と6年魚（2015年級）の大型・高齢群が主体となり、来遊量は昨漁期並みの見通しです。ただし、この時期の漁況は水温分布などに大きく影響されます。
- 漁期中盤（2月）：5年魚～4年魚（2017年級）主体となり、来遊量は昨漁期並み～若干上回る見通しです。
- 漁期終盤（3月）：4年魚主体となり、来遊量は昨漁期並み～下回る見通しです。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査で採集されたニシンは、尾叉長28cmにモード（最頻値）のある4年魚（2017年級；2017年生まれ）が36%，尾叉長30cmにモードのある5年魚（2016年級）が29%，尾叉長31cmにモードのある6年魚（2015年級）が24%と高い割合を占めました（下図）。

これまでの漁獲実績に基づいた資源計算とトロール調査の採集状況から、各年齢の資源量を昨漁期と比べると、6年魚と5年魚は昨漁期と同程度に豊度が高いことから「横ばい」、4年魚も豊度は高く昨漁期に比べると「横ばい～増加」、3年魚（2018年級）は「減少」と予測されました。主漁獲対象である4年魚以上の資源重量としては、昨漁期と同程度であり2009年度から続く高水準にあると考えられます。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため、地域間で好・不漁感の違いが出てくる可能性はありますが、石狩湾沿岸では水温分布等に大きな異変がなければ、漁期序盤（1月）は6年魚と5年魚、中盤（2月）は5年魚と4年魚、終盤（3月）は4年魚がそれぞれ来遊の主体になると見込まれます。来遊量は漁期を通して昨漁期並みの見通しですが、中盤には来遊が多く、終盤には少なくなる可能性もあります。

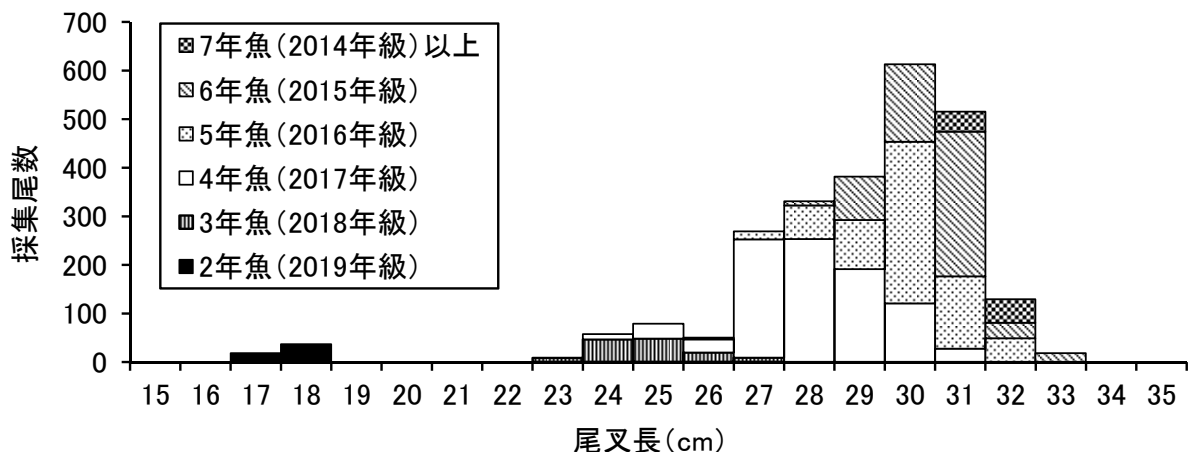


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）